

|    |    |    |      |
|----|----|----|------|
| 教科 | 国語 | 学年 | 第5学年 |
|----|----|----|------|

| 単元名                  | 時数 | 単元の到達目標(小単元のわらい)  | 単元のまとまりの評価規準   |   |  |
|----------------------|----|---|--|---|--|
|                      |    |   | 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
| ひみつの言葉を引き出そう         | 1  | ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)<br>○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)<br>○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)イ)   | 【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア)  | 【思・判・表】<br>・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)<br>・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(A(1)イ)   | 【態】進んで自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもって友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話そうとしている。    |
| かんがえるのって おもしろい       | 1  | ◎詩を音読することができる。(知・技(1)ケ)<br>○詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ)  | 【知・技】詩を音読している。((1)ケ)   | 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)   | 【態】進んで詩を音読し、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。                                   |
| 名前を使って、自己しょうかい続けてみよう | 1  | ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)<br>○文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。(知・技(1)カ)<br>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)<br>○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)イ)      | 【知・技】<br>・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア)<br>・文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。((1)カ)    | 【思・判・表】<br>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)<br>・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)イ)                                   | 【態】積極的に文章の構成や展開について理解し、これまでの学習をいかして自分を紹介する文章を書くようとしている。                  |
| 銀色の裏地                | 5  | ◎比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)<br>◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)<br>○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解している。   | 【知・技】<br>・比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)<br>・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解している。((2)イ)    | 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)   | 【態】粘り強く登場人物の相互関係や心情を捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことを伝え合おうとしている。                    |
| 図書館を使いこなそう           | 1  | ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知・技(3)オ)  | 【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。((3)オ)   |   | 【態】進んで読書が自分の考えを広げることに関与することに気づき、これまでの学習をいかして本を探して、記録カードを書くようとしている。       |
| 漢字の成り立ち              | 2  | ◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。(知・技(3)ウ)   | 【知・技】漢字の由来、特質などについて理解している。((3)ウ)   |   | 【態】進んで漢字の由来、特質などに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。                           |
| 春の空                  |    | ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)<br>○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)<br>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)   | 【知・技】<br>・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ)<br>・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) | 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)   | 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って春らしいものや様子を文章に書くようとしている。                     |
| きいて、きいて、きいてみよう       | 6  | ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)<br>◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)<br>○話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ)<br>○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討 | 【知・技】<br>・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。((1)イ)<br>・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ)  | 【思・判・表】<br>・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)<br>・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) | 【態】粘り強く話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもってインタビューをしたり、報告したりしようとしている。 |

|                             |     |   |  |  |   |
|-----------------------------|-----|---|--|--|---|
| 見立てる<br>言葉の意味が分かること         | 7   | ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)<br>◎事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)<br>○文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)<br>○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) | 【知・技】<br>・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)<br>・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)       | 【思・判・表】<br>・「読むこと」において、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア)<br>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)       | 【態】粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。            |
| 敬語                          | 2   | ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技(1)キ)<br>○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)   | 【知・技】<br>・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア)<br>・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。((1)キ)  |  | 【態】進んで日常よく使われる敬語について理解し、学習課題に沿って使い慣れようとしている。                  |
| 日常を十七音で                     | 3   | ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)<br>◎俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)<br>○俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けすることができる。(知・技(1)ウ)<br>○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)                                      | 【知・技】<br>・俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けしている。((1)ウ)<br>・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)  | 【思・判・表】<br>・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)<br>・「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。(B(1)オ) | 【態】粘り強く構成や書き表し方などに着目して文言を整え、学習の見通しをもって俳句を作ろうとしている。            |
| 漢字の広場①                      | 1   | ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)<br>・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)   | 【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)   | 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)  | 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。             |
| 古典の世界(一)                    | 2   | ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)<br>○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ)   | 【知・技】<br>・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア)<br>・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知っている。((3)イ) |  | 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って古文を音読しようとしている。                    |
| 【情報】目的に応じて引用するとき<br>2時間(書②) | 1~2 | ◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ)<br>○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ)   | 【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。((2)イ)   | 【思・判・表】「書くこと」において、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)  | 【態】進んで目的に応じて引用のしかたを理解し、学習課題に沿って引用カードを書こうとしている。                |
| みんなが使いやすいデザイン               | 8   | ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)<br>○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ)   | 【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。((2)イ)   | 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)  | 【態】粘り強く目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。 |
| 同じ読み方の漢字                    | 2   | ◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)   | 【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)  |  | 【態】進んで同じ読み方の漢字の使い分けに関心をもち、これまでの学習をいかしてそれらを理解しようとしている。         |
| 夏の夜                         | 1   | ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)<br>○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)<br>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)   | 【知・技】<br>・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ)<br>・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア)                           | 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶ。(B(1)ア)   | 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って夏らしいものや様子を文章に書こうとしている。           |

|                  |     |   |  |  |  |
|------------------|-----|---|--|--|--|
| 作家で広げるわたしたちの読書モモ | 5   | ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知・技(3)オ)<br>○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ)   | 【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3)オ)                    | 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)  | 【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の魅力を伝え合おうとしている。                       |
| かぼちゃのつるがわれは草なり   | 2   | ◎比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)<br>○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ)  | 【知・技】比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)  | 【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)   | 【態】進んで比喻や反復などの表現の工夫に気づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。              |
| どちらを選びますか        | 1~2 | ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ)<br>◎互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ)  | 【知・技】思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ)                                  | 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)  | 【態】積極的に互いの立場を明確にして、これまでの学習をいかして立場に分かれて話し合おうとしている。              |
| 新聞を読もう           | 2   | ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ)<br>○文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)<br>○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) | 【知・技】文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)                                 | 【思・判・表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア)<br>「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) | 【態】進んで必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って新聞記事を読もうとしている。        |
| 文章に説得力をもたせるには    | 2   | ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)<br>○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)   | 【知・技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) | 【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)  | 【態】積極的に筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。 |
| 漢字の広場②           | 1   | ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)<br>・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)   | 【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)                            | 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)  | 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。              |
| たずねびと            | 6   | ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ)<br>○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)   | 【知・技】比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。(知・技(1)ク)                                    | 【思・判・表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)  | 【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。              |
| 漢字の広場③           | 1   | ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)<br>・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)   | 【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)                            | 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)  | 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。              |
| 方言と共通語           | 2   | ◎共通語と方言との違いを理解することができる。(知・技(3)ウ)  | 【知・技】共通語と方言との違いを理解している。(3)ウ)   |  | 【態】進んで方言と共通語の違いに関心を持ち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。                  |

|                              |   |   |   |  |
|------------------------------|---|---|---|--|
| 秋の夕                          | 1<br>◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)<br>○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)<br>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選べることができる。(思・判)  | 【知・技】<br>・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ<br>・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア  | 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)   | 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って秋らしいものや様子を文章に書こうとしている。                    |
| よりよい学校生活のために【コラム】意見が対立したときには | 6<br>◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)<br>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表(1)ア)<br>◎互いの立場や意図を明確にしながらいかに話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表(1)オ)<br>○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ)   | 【知・技】<br>・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ<br>・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ   | 【思・判・表】<br>・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)<br>・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらいかに話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)  | 【態】粘り強く互いの立場や意図を明確にしながらいかに話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。                       |
| 浦島太郎——「御伽草子」より               | 1<br>◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ)<br>○親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)<br>○時間の経過による言葉の変化に気づくことができる。(知・技(3)ウ)   | 知・技<br>・親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア<br>・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知っている。(3)イ<br>・時間の経過による言葉の変化に気づいている。(3)ウ | /   | 【態】進んで昔の人のもの見方や感じ方を知り、学習課題に沿って古典の文章について思ったことを話そうとしている。                 |
| 和語・漢語・外来語                    | 2<br>◎語句の由来などに興味をもつとともに、世代による言葉の違いに気づくことができる。(知・技(3)ウ)<br>○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)   | 【知・技】<br>・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ<br>・語句の由来などに興味をもつとともに、世代による言葉の違いに気づいている。(3)ウ   | /   | 【態】進んで和語・漢語・外来語などの由来に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。                     |
| 固有種が教えてくれること 自然環境を守るために      | 10<br>◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)<br>◎引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表(1)エ)<br>◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表(1)ウ)<br>○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知・技(3)オ)<br>○事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえて、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表(1)ア) | 【知・技】<br>・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア<br>・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3)オ   | 【思・判・表】<br>・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)<br>・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえて、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア)<br>・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) | 【態】粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。 |
| カンジ博士の暗号解読                   | 2<br>◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)  | 【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ   | /   | 【態】進んで漢字の読み方に関心をもち、これまでの学習をいかして漸次書こうとしている。                             |
| 古典の世界(二)                     | 1<br>◎親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)<br>○作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ)   | 【知・技】<br>・親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア<br>・作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知っている。(3)イ   | /   | 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って漢文を音読しようとしている。                             |
| 漢字の広場④                       | 1<br>◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)<br>・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表(1)オ)   | 【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ  | 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)   | 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。                      |
| やなせたかし——アンパンマンの勇気            | 5<br>◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知・技(3)オ)<br>◎文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表(1)オ)<br>○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表(1)ウ)   | 【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3)オ  | 【思・判・表】<br>・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)ウ)<br>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)   | 【態】積極的に文章を読んで理解したことに基いて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている。             |

|               |   |  |  |   |  |
|---------------|---|--|--|---|--|
| あなたは、どう考える    | 6 | ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)<br>◎文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(思・判・表B(1)カ)<br>◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)<br>◎目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表している。(思・判・表B(1)カ) | 【知・技】<br>・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)<br>・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)      | 【思・判・表】<br>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)<br>・「読むこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ) | 【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見直しをもって意見文を書こうとしている。                      |
| 冬の朝           | 1 | ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)<br>◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)<br>◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(思・判・表B(1)ウ)   | 【知・技】<br>・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)<br>・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) | 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)   | 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習の課題に沿って冬らしいものや様子を文章に書こうとしている。                 |
| 好きな詩のよさを伝えよう  | 2 | ◎比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)<br>◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)<br>◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表B(1)ウ)  | 【知・技】比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)  | 【思・判・表】<br>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)<br>・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)                             | 【態】積極的に詩を読んでまとめた感想を共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。                         |
| 言葉でスケッチ       | 2 | ◎目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)<br>◎比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)  | 【知・技】比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)  | 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)   | 【態】粘り強く自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習課題に沿って情景が伝わるように書こうとしている。              |
| 熟語の読み方        | 2 | ◎第5学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)   | 【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ)  |   | 【態】進んで熟語の読み方に関心を持ち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。                           |
| 漢字の広場⑤        | 1 | ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)<br>・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)  | 【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)  | 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)   | 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。                    |
| 想像力のスイッチを入れよう | 6 | ◎文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ)<br>◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)<br>◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表B(1)ウ)   | 【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)   | 【思・判・表】<br>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)<br>・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)                                   | 【態】積極的に文章を読んで理解したことに基いて自分の考えをまとめ、学習の見直しをもってメディアとの関わり方について話し合おうとしている。 |
| 複合語           | 2 | ◎語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)  | 【知・技】語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ)  |   | 【態】進んで複合語の構成や変化について関心を持ち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。                     |
| 言葉を使い分けよう     | 3 | ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)<br>◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)<br>◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)   | 【知・技】<br>・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア)<br>・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)    | 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)  | 【態】積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って手紙を書こうとしている。                      |

|               |   |  |   |   |  |
|---------------|---|--|---|---|--|
| もう一つの物語       | 6 | ◎話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)<br>◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ)   | 【知・技】話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)   | 【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)   | 【態】粘り強く文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって物語を書くようとしている。       |
| 「子ども未来科」で何をする | 6 | ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ)<br>◎話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考慮することができる。(思・判・表A(1)イ)<br>◎文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)<br>◎資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) | 【知・技】<br>・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。((1)イ)<br>・文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) | 【思・判・表】<br>・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ)<br>・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) | 【態】粘り強く話の構成を考え、学習の見通しをもって提案するスピーチをしようとしている。        |
| 大造じいさんとガン     | 6 | ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ)<br>◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)<br>◎文章を音読したり朗読したりすることができる。(知・技(1)ケ)<br>◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ)   | 【知・技】<br>・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)<br>・文章を音読したり朗読したりしている。((1)ケ)  | 【思・判・表】<br>・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)<br>・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)                 | 【態】積極的に意見や感想を共有し、学習の見通しをもって物語の魅力を伝え合おうとしている。       |
| 漢字の広場⑥        | 1 | ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)<br>・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)  | 【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)  | 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)   | 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書くようとしている。 |
| 五年生をふり返って     | 1 | ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)<br>◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)  | 【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア)   | 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)   | 【態】進んで考えたことなどから書くことを選び、学習課題に沿って1年間の振り返りを書くようとしている。 |